

瑞医

世界に羽ばたくMEDIPOINT
2013.1. VOL.20

contents

極 研究&教育
Current topics in research and education

人 時の人
People in the news

技 最新医療の紹介
Latest developments on the medical front

和 お知らせ
Information

名市大病院に入院支援センターが開設されました

平成24年10月1日(月)、当病院内に“入院支援センター”が開設されました。病院外来診療棟1階の中央部分に新しく整備されました。このセンターの開設の目的は、入院に際しての患者さんの不安な気持ちを少しでも解消し、スムーズに入院できるようにすることにあります。

このセンターができるまでは、患者さんは入院前に何カ所かに分かれた受付窓口を回る必要がありました。センター開設後は、看護師、薬剤師、事務職員などの各専門分野の職員が一カ所に常駐しており、患者さんは各所を移動することなく、入院に際しての手続きを一カ所で行うことが可能となり、“ワンストップサービス”を実現する事ができました。またセンターには各専門職員が常駐しているので、患者さんがいつでも相談でき、安心して入院できる環境を提供するとともに、安全で質の高い医療サービスの提供を可能としています。このような入院に関しての業務をすべて集約するセンターの設置は全国的に見ても珍しい試みであり、県内では初めてであります。

具体的なセンターの業務内容は以下の通りです。

入院案内	入院にあたっての説明、病室の説明・希望の聞き取り、入院前オリエンテーションなど入院生活を送るための準備を支援します。
入院受付	入院当日に入院申込書を受け取り、入院中の誤認防止のためのリストバンドをお渡しします。
入院相談	入院前に患者さんの疑問や不安を解消できるように、入院にかかる様々な相談に応じます。
入院前持参薬確認	薬剤師による入院前の内服薬の確認。
病床の管理	入院ベッドの効率的な運用・管理を行っています。

このセンターのもう一つの目玉は入院前の持参薬確認です。手術や出血を伴う検査を受けられる際、手術や検査中の出血を最小限にするために事前に中止をしておかなければいけない薬が何種類かあります。これまでは各診療科の担当医師がチェックを行っていましたが、すべての内服薬を正確にチェックするのは難しい状況でした。センター開設後は、常時待機している薬剤師により内服薬のチェックが確実かつ正確に行われ、中止の指示漏れによる手術・検査の中止・延期が少なくなりました。

今後は入退院支援センターへの発展を目指し、さらにセンターの充実を図っていくつもりです。今後とも皆様の御指導ご協力の程宜しく御願ひ申し上げます。

文責:入院支援センター長 岡田 祐二 (中央手術部 准教授)



入院支援センター入口



プライバシーに配慮した作りになっています

“瑞医の由来”

「瑞医(ずい)」という言葉は、瑞穂で育った医師が心の支えとなる名市大、「瑞」にはめでたいことという意味があるので新しい門出の広報誌にと考えました。新しく発足した同窓会と一体となって歩むことを目的に、その名前「瑞友会」と相呼応しています。サブタイトルの「MEDIPOINT」は、「Medical」と「Port(港・空港)」をかけた造語。名市大を最新情報を発信する拠点とし、卒業生が社会・世界へ出発し、またいつでも戻ってこられる港であるようにとの願いをこめています。

連携病院

独立行政法人 労働者健康福祉機構 旭労災病院

近隣住民や医療機関からは既に当院の理念が理解され最近、患者数は外来、入院ともに増加傾向が顕著です。診療科間の垣根が低く全人的医療が実践されていること、地域中核病院に相応しい医師と設備が整っていることが大きな特色です。若い医師から研修病院として人気が高いのも、働きやすい環境にあることの証です。じん肺やアスベスト関連疾患など厚生労働省管轄下の労災病院としての政策医療については、常に全国一の評価を受けています。

外観やパッと見は良くありませんが、50年を超える歴史があり中身は輝いています。昨年9月名古屋では初めての日本高血圧学会総会を主催しました。その際、3,000人を超える参加者を楽しませてくれた“天下分け目の高血圧”という歴史的にも興味深い屏風絵を当院玄関に移設しました(写真)。高血圧症と診断されたとき、戦国時代の尾張武将なら、どう対処したかを対比させています。是非、お気軽にお立ち寄りいただき、屏風とともに病院の雰囲気を体感いただければ幸いです。

院長 木村 玄次郎



病院玄関の屏風絵

厚生連尾西病院

当院は稲沢市西部、木曾川のすぐ東に位置する、地域密着型の総合病院(総病床数300:一般病床199、精神病床51、療養病床50)で、急性期から慢性期医療、健診、介護・福祉まで幅広く地域医療に貢献しています。平成14年に本館が新築され、現在は東館の建て替え工事に向け鋭意準備中です。救急医療は当院の重要な機能の1つであり、救急車の年間受入台数は約2000台と稲沢市内で最多です。精神科病床を有する総合病院であることも特色の一つで、精神科患者の身体合併症の診療も積極的に行っています。また、当院は基幹型研修指定病院として、保健所以外の殆ど全ての領域を院内で研修できる点が強みです。初期・後期研修医間での屋根瓦式の指導体制もあり、診療科(全科が名市大から医師の派遣を受けています)間や他職種との垣根も低く、アットホームな雰囲気の中で、研修医は見学だけではなく実践的な研修を行っています。



北館(左)と東館(右)



尾西病院イメージキャラクター

院長 眞下 啓二

教育

M1 早期体験学習—人工透析施設訪問

1年生は医学部らしい授業がないこともあり、学習意欲が低下しやすい。これを防ぐため、6年前から早期体験学習の一環として、血液透析施設訪問を開始した。これは医療面接を通じて、患者さんとの医療コミュニケーションの必要性・重要性を実感し、また解決すべき問題を自分で見つけることを目的としている。

第一段階として、医学部学生4~5名のチーム単位で施設を訪問して透析患者さんと1対1で面接を行う。患者さんとの会話の中から理解すべき課題を自分で探し、その課題を解決するために必要な知識を自己学習する。これに関しては個人レポート提出をもって達成度を確認する。第二段階として、グループで1つの問題に対して学習を行い、それを全体発表し、相互評価を行うことで達成度を確認する。

これを行うためには、単に医学知識だけではなく、個人情報的重要さの理解、服装・白衣などへの配慮が重要となるため、今後の臨床教育に有用と思われる。

文責:人工透析部 病院教授 吉田 篤博

研究者紹介



Naotuka
Okayama

岡山 直司(おかやま なおつか) 消化器・代謝内科学分野(病院教授)

専門:糖尿病学、内分泌学

糖尿病は今後も増加の一途をたどる疾患であり、近年も新しい機序の治療薬が開発、臨床応用されています。中でも最近特に注目を浴びているのがインクレチン関連薬です。この薬はインスリン分泌作用のみならずインスリン分泌細胞の増殖、機能改善効果も期待されています。しかし問題点として、どのような患者に有効であるかはまだ不明です。今回我々は関連施設も含めまして、この薬剤が奏功する患者背景について検討し、血中グルカゴン濃度が高い患者に有効であることを新たに確認しました。今後も新薬が続々と登場しますが、これらの薬剤を用いた臨床研究を様々な角度から行っていきたいと思っています。

近年の論文:Diabetes Obes Metab. 14: 379-82 (2012).Neuroscience 162:1212-9 (2009).Curr. Neurovasc. Res. 6: 267-78 (2009).Psychogeriatrics 8: 73-8 (2008).J. Smooth Muscle Res. 43: 191-9 (2007).



Motoki
Yano

矢野 智紀(やの もとき) 腫瘍・免疫外科学分野(准教授)

専門:呼吸器外科

呼吸器外科で扱う主たる疾患は肺癌ですが、肺癌、特に非喫煙者の肺癌は近年著しく増加しております。この非喫煙者の肺癌は多くの場合単一の遺伝子異常で発癌しており、我々のグループではこの遺伝子異常に関する研究を行ってきました。また肺癌の治療に不可欠な自動縫合器の安全性に関する臨床研究や肺癌治療を向上させるための術後補助療法に関する研究も行っております。また縦隔腫瘍、その代表疾患である胸腺腫の治療法の確立のために基礎研究や臨床試験を行っており、今後はJARTやITMIGなどと協力して、胸腺上皮性腫瘍に特化した国際的な臨床試験を行い、胸腺腫の治療に関するエビデンスを確立したいと考えます。

近年の論文:Interact Cardiovasc Thorac Surg 14(2):146-50 (2012). Interact Cardiovasc Thorac Surg 13(1):21-4 (2012). Ann Thorac Cardiovasc Surg 17(1):58-62 (2011). Ann Thorac Surg 89(5):1612-9 (2010).J Thorac Oncol. 3(3):265-9 (2008).



Takashi
Ueda

植田 高史(うへだ たかし) 機能組織学分野(准教授)

専門:神経解剖学

神経系は末梢の感覚受容細胞を介して光、音波、化学物質、物理的刺激、温度などの情報を感知しています。私は、この感知に関わるセンサー分子の研究を継続して行っています。これまでに、味覚受容体遺伝子にアミノ酸変異を伴う個人差が存在することを明らかにするとともに、機能未知な味覚受容体を解析する技術を考案しました。近年では、感覚受容細胞に存在する受容体が上皮細胞にも発現し、上皮細胞の感覚受容に関わる可能性を見出しました。感覚能力は受容体分子に依存しており、これらの研究は生体の感覚受容機構を理解する上で不可欠です。また治療薬の約1/3が受容体分子を標的としていることから、一連の研究は創薬にもつながると考えています。

近年の論文:Eur J Pharmacol.671(1-3):79-86 (2011), Neurogastroenterol Motil.23(11):1020-8 e497 (2011), Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol 301(1):G138-47 (2011), Urology. 76(2):509.e1-7 (2010), J Biomol Screen. 14(7):781-8 (2009)



Sayuri
Yamazaki

山崎小百合(やまざき さゆり) 加齢・環境皮膚科学分野(准教授)

専門:皮膚免疫学

免疫を活性化する樹状細胞を発見し、2011年度ノーベル医学賞を受賞した米国ロックフェラー大学Ralph Steinman教授の研究室で、樹状細胞が抗原特異的制御性T細胞の増殖誘導に重要である事を示してきました。4月より森田明理教授の元、加齢環境皮膚科学に赴任しました。これまでの樹状細胞と制御性T細胞の研究を臨床へフィードバックし、新しい免疫療法に貢献できるように頑張りたいと存じます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

近年の論文:PLoSOne(2012) in press, PLoSOne (2011);6:e18833, J Immunol 181: 6923-6933, (2008), Blood 110:4293-4302, (2007), Proc Natl Acad Sci USA 103: 2758-2763, (2006), J Exp Med 198:235-247, (2003), Nature Immunol 3:135-142, (2002)

OBのご紹介

伊藤宣夫先生:S48年卒(愛知県医師会副会長)に聞く

Q:就任され落ち着いた頃と思いますが、現在の心境は?

自分の時間をどのように捻出するのを考えるくらい、忙しいというのが実感です。昨年まで担当していた調査室に加えて、学校保健、福祉、介護保険、厚生局支払基金に関連する医療保険の部門も担当しています。また、感染症、環境衛生、広報、IT関係も担当となっています。県の審議会も多く、社会福祉協議会、医療法人に関連する部会、環境審議会にも携わっております。小児に関連する部会の会議も多いです。

副会長となり、これまでに比べより広範な分野に関係させていただいております。県審議会での内容を県医師会の各担当部門で報告することになりますので、1日に複数の会議に参加することもあります。現在は、国の基本的な政策に基づき地方分権の形で愛知県が実行する「健康づくり策定プラン」が進行中ですが、平成25年度4月からの新プランの策定に向け、幅広く会議に出席させていただき、その責任も重く身が引き締まる思いです。

Q:現在の医療情勢のなかで最も力を入れていることは?

将来の消費税の増税にともない、医療界でどのように対応していくのか?が、大きな取り組みの一つになっています。社会保障の税の一体改革の中で、増税の対応が先行し社会保障の枠組みに対する対応が少し遅れていると思います。社会保障の問題に医師会として意見を述べていくことが重要と感じています。今後は医療費への支出限度が生じますので、制度の中でベターな医療を実践する為の選択と集中を考える時期が来ております。



伊藤 宣夫 先生

昭和48年3月 名古屋市立大学医学部卒業
 昭和59年6月 花園内科開院(豊田市花園町)
 平成 4年4月 豊田加茂医師会理事(4期8年在任)
 平成16年4月 愛知県医師会理事
 平成24年4月 愛知県医師会副会長

水谷孝文賞受賞者のご紹介

「水谷孝文賞自己研鑽助成費」の今年度受賞者に、神山崇先生(臨床研修医2年次)、辻達也先生(臨床研修医2年次)、真木浩行先生(臨床研修医1年次)が選出されました。

本賞は、高い意欲と向上心をもつ名古屋市立大学病院の臨床研修医を支援し、その活動の向上発展と意識の高揚を図り、もって名古屋市立大学の発展に寄与する若手医師の活躍に資することを目的として、名古屋市立大学医学部同窓会 初代会長の水谷孝文先生からのご寄付を基金として平成20年度に創設されました。

今年10月に開催した水谷孝文賞審議委員会によって、上記3名が特に高い意欲と向上心をもって臨んでいる研修医として選考され、各々に水谷孝文賞自己研鑽助成費が授与されました。



臨床研修医 2年次 神山 崇 先生

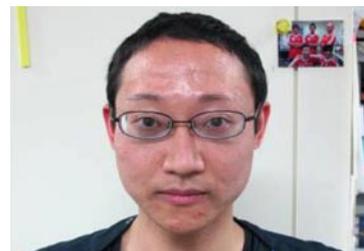
研修医2年目の神山崇と申します。このような素晴らしい賞を頂き光栄に思います。この2年間、様々な科の先生、コメディカルの方々から熱心にご指導いただきました。他大学出身ではありますが、特にそれを意識することなく研修させていただいた当院の包容力に感謝しております。この場をお借りして当院の皆様に対して厚く御礼申し上げます。残り数ヶ月の研修ですが、当院で学んだことを生かし、お世話になった方々へ恩返しをするつもりで働かせていただきたいと思います。



臨床研修医 2年次 辻 達也 先生

このたびは、水谷孝文賞を頂きまして、誠にありがとうございます。名古屋市立大学病院初期研修医として大変光栄に存じます。このような受賞の機会を頂きましたことは、皆様方の深いご厚情の賜物であると存じます。

このたびの受賞を受けましたことを胸に、これからも、職場での仕事に励みながら、社会貢献に尽くしてまいります。今後とも、皆様方の尚一層のご指導とご鞭撻をお願い申し上げ、御礼のご挨拶とさせていただきます。



臨床研修医 1年次 真木 浩行 先生

この度はこのような名誉ある賞を頂き身に余る光栄と存じます。私は医学部5年生の時より放射線科医を志望しており今年も多く放射線科医の学会に参加いたしました。またACLSで代表される救命救急に必要な蘇生スキルの講習も積極的に参加いたしました。このような姿勢を認めていただけての受賞と心よりうれしく思います。この場をお借りして、熱心な御指導をいただいた各科の先生方、苦しい時に支えていただいた研修医2年目の先生方や1年目の同僚達、そして医師としての芯を教えていただいた総合内科の先生方に心より感謝申し上げます。

02 時の人 People in the news

学生生活

平成24年度ニューサウスウェールズ大学選択制臨床実習報告会を開催しました!

平成24年度ニューサウスウェールズ大学における選択制臨床実習の報告会を、平成24年10月31日に研究棟11階講義室Bで開催しました。今回、大学から派遣されたのは、M6の伊藤桜さんと加藤寛子さん。多くの学生が集まり、和気あいあいとした雰囲気の報告会となりました。

本実習は医学部の正式なプログラムであり、M6の選択制臨床実習の一環として行われています。公募と選考委員会を経て、毎年2名を派遣しています。学生には大変人気のあるプログラムであり、毎年多くの応募者のなかから決定しなくてはならないことは、教員としてはつらいところです(全員が行けると良いのですが...)。

伊藤さんと加藤さんからは、行った実習について詳細に報告してもらいました。二人は、他国の医療を実体験できたこと、そして他国から日本の医療を見つめることができたことがよい経験となったと話していました。さらに素晴らしいのは、体験をもとに名市大医学部における英語教育の在り方、患者さんとの接点がより多い臨床実習など具体的な提案してくれたことです。これらを参考にしながら、医学部としてもより良い臨床実習を目指して努力していきたいと考えています。

伊藤さん、加藤さん、参加してくれた皆さん、ありがとうございました。平成25年度の派遣はすでに選考済みですが、平成26年度に向けてたくさんの応募を待っています!

文責 BSL小委員会 委員長 祖父江 和哉(麻醉・危機管理医学 教授)



NSW報告会の様子



伊藤さん(左)、加藤さん(右)

Kawasumi X'mas!

12月21日ークリスマスを前に、医学研究棟のロビーが華やかなデコレーションで飾られました。教員・学生有志によるクリスマス会の始まりです!企画したM5 丸茂さんに聞きました。

2012年度川澄クリスマス実行委員長のM5丸茂義晃と申します。

私たち川澄クリスマス実行委員会は、医学部長の藤井義敬先生のご協力のもと、医学部学生代表委員会(旧:自治会)を中心として『川澄キャンパスをより自由に、楽しく、かつらびやかに』をコンセプトに掲げ、看護学部を含む川澄キャンパス内の全学生および看護師・コメディカル・事務員さんなど病院全体を含めた職員全員での親睦会として、研究棟1階におけるクリスマス会を企画・運営しております。

2012年度はスペシャル企画といたしまして、『部対抗型大喜利ゲーム』を実施いたしました。硬式テニス部・蝶ヶ岳ボランティア診療班など5つの学生チームによるネタの発表を、現病院長であられる城卓志先生をはじめとする基礎・臨床の先生方7名に審査していただく形をとりました。学生がネタを準備する最中、回答を思いついた先生が発表なったり、からだを張った学生ネタもあったりと、大変好評な企画でありました。

会としてまだまだ完全でない部分は多々ありますが、今後ともますます盛り上げていく所存でございますので、諸先生方にはご支援いただきますよう何卒よろしくお願い申し上げます。



写真1:鈴木教授率いる川澄合唱団。



写真2:なぜかクリスマスに大喜利。審査員は医学部を代表する笑いのプロ。



睡眠医療センター -2年間の歩み-

睡眠医療センターが創立されてから早くも2年経ちます。これまでの歩みをご報告させていただきます。

・日本睡眠学会・睡眠認定医療機関登録

1年間約350例の睡眠検査を行い、日本睡眠学会の睡眠認定医療機関(A型)として登録することができました(写真1)。これも病院内外多くの科に渡りご紹介を頂いたお陰であります。

A型睡眠認定医療機関とは睡眠時無呼吸症候群のみならず、睡眠障害国際分類(ICSD-II)にあるすべての睡眠医療を行うことができる施設であり、その重責を感じながらも、引き続き質の高い睡眠医療を行うべく邁進したいと思います。

・学内外へ睡眠医療教育の普及

毎月第三火曜日に院内で睡眠勉強会・症例検討会を行い、年に2回一般医療者向けの桜山睡眠研究会(<http://ncu8.nukimi.com/>)を行い、さらに年に2回睡眠認定医・歯科医・技師を育てるPSG勉強会を開いて参りました。院内勉強会では内科、精神科、小児科、薬剤、看護、栄養管理など多職種に渡り、多数参加して頂けるようになりました。また、平日にも拘わらず桜山睡眠研究会では約150名の参加を頂く大きな会として育ちました。現在中部でもっとも参加者の多い睡眠研究会となり、それだけに、粗末な運営はできないと、さらなる切磋琢磨が必要と感じています。

・地域医療への活動

当センターは国公立大学で初めて、講座から独立した睡眠専門センターです。これまでの睡眠医療、特に睡眠時無呼吸症候群に対する治療であるCPAP(経鼻持続陽圧呼吸療法)に関して、その多くは地域診療医が業者に委ねる形で行われて来ました。そのためか、CPAPは営利目的な治療と患者に誤認され、また、地域診療医も困惑した症例を相談する場所がありませんでした。

当センターはすべての検査にマニュアル解析を行い、CPAPについても適切な圧調整をした上で、地域診療医に紹介し、困ったら送り返して頂くという形の新たな睡眠連携医療を作りました。この体制は全国的にも稀であり、来年度の日本睡眠学会シンポジウムとして取り上げられる予定です。

・世界へ向けての学術活動

耳鼻咽喉科が背景にある私たちは、これまで難病と言われて来たメニエール病患者に睡眠検査を行ったところ、睡眠障害が誘因となりうることに着目し、2010年に国際雑誌で報告しました。このことが評価され、今年夏カリフォルニア大学Davis校で講演の招待を受けました(写真2)。その際、聴講されたアメリカ耳鼻咽喉科学会総会(AAO-HNS)の編集委員より更に招待を受け、耳鼻咽喉科領域では世界最多発行部数のAAO-HNS雑誌にreviewを書かせて頂く機会を賜りました。これまで海外の知識を輸入することがあっても輸出することは多くはなく、これを機会に名古屋市立大学の名を広めたい、という心意気で尽力したいと思います。

最後に…

睡眠医療への解明が遅れた背景に、検査自体、24時間に渡る大変な作業が必要という点が上げられます。当センターが現在のところ無事に運営ができてきているのは、スタッフの絶え間ない努力によるものです。部長としてすべてのスタッフに感謝の意を表します。そして更に、引き続き皆様のご指導ご鞭撻を賜ることができますよう、宜しくお願い申し上げます。

文責:睡眠医療センター准教授
中山 明峰



(写真1)



(写真2)

地域貢献・国際交流・地域活動

平成24年後期「学び直し講座」受講修了式(計127名に対し受講修了証が与えられた)

9月初旬から12月初旬までの15週にわたり開催された15回の講義が無事終了し、受講修了証の授与式が行われた(写真1)。

火曜日には、「発達障害を学ぶ:医学的理解から教育/療育へ」のテーマのもと、現役の教育関係者(約半数)や医療関係者を含む合計84名が受講。当日までに9回以上の出席をした受講者65名に対して修了書が授与された。

水曜日には、「画像診断・放射線治療・IVR(血管内治療)を学ぶ」のテーマのもと、第一線で活躍する放射線技師の方を中心に医療関係者を含む合計59名が受講。受講者40名が修了書を授与。

木曜日には、「Birth Tour 2012 —安全なお産を目指して」のテーマのもと、助産師や看護師を中心に計34名が受講。昨年に続いて開講された本企画は、実習をより多く取り入れた少数精鋭のアドバンスコース。受講者22名が修了書を授与された。

本年度から看護師/助産師/放射線技師などのコメディカル職種に加え、医療/福祉に関わる学校教員、医薬情報提供者、健診業務の企業関係者をも対象として、「学び直し講座」の全体企画がなされた。出席者からは、通常のセミナーや講演会では得られない<名古屋市立大学らしいより高度な知的情報>が提供されていると非常に好評を得ている。

すでに来年度も開講が決定!人気講座は引き続き開講されます。

詳しくはホームページ

(<http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/w3med/manabi/index.html>)でご確認ください。

名古屋市立大学医学研究科が提供する「学び直し講座」受講修了証が、見た目の立派さも(写真2)さることながら、それ以上の価値をもつ「知のブランド」証明書となる日も近いかもしれない。

文責:脳神経生理学 教授 飛田 秀樹



(写真1)修了者にはコースディレクターから修了書が授与された



(写真2)受講修了証



最終日のディスカッションは特に盛り上がった

桜山の懐かしいお店紹介—第14回「サクラサイドテラス」さん

サクラサイドテラスとは、「サクラ(桜山)サイド(再度訪れる)テラス(人々を照らす)」という意味。

病院の敷地内にあり患者様もよく訪れるというイタリアンレストランである。店内はジャズがながれる落ち着いた雰囲気、ここが病院である事を忘れさせてくれる。「心を込めた料理でお客様に笑顔になってもらえるように毎日が真剣勝負です。」と店長さんは語る。名物料理は秘伝のトマトパスタ。トマトソースは毎日野菜を刻んで4時間煮込んで作るという。トマトの酸味と甘味の絶妙なバランスで成り立つソースで、何度食べても飽きない味である。全て手作りにこだわる自然派のお料理は体に優しく心も和む。さらに店長のお勧めはイタリア産微発泡性ワイン、ランブルスコ。通称「名市大ワイン」。香りが高くさわやかで飲みやすく、料理によく合うと好評である。モーニングやランチもあり、パーティーも随時受付けている。(筧 理恵 再生医学分野技術職員)

西棟1階の入口。
今日のランチは何にしようかなあ〜。



トマトパスタのランチ。
学内にいることを
忘れず。



取材に訪れた広報委員
澤本教授(左)と店長さん(右)。
ワンドリンクサービス、
ありがとうございます。



「瑞医」持参でワンドリンクサービス。
(2月28日まで)

25年度入学生より、医学部入試制度が変わります!

■医学部入試の変更について

平成25年度から医学部の入学者選抜が一部変更されました。医学部入試は、これまで前期日程と後期日程、そして地域枠推薦入試を行ってきました。後期日程入試は、平成9年から採用して筆記試験では計れない能力や医学・医療の将来を担う強いリーダーシップを持った学生を獲得することを目的としてきましたが、追跡調査にて在学中の成績や国家試験の合格率、卒後の進路状況に関して前期日程入学者との間に差が見られないことが判りました。そこで、より優れた学生を獲得するために、後期日程入試を廃止して、平成25年度から推薦入試Bを採用することになりました。

推薦入試Bは前期日程入試の前に、地域枠推薦入試と同日に施行いたします。選抜方法の詳細は「平成25年度推薦入試学生募集要項」を参照いただければと思いますが、以下に簡単に説明いたします。

まず、定員は20名で2段階選抜にて合格者を決定します。第1段階選抜は、センター試験で総配点1,000点中800点以上の者を対象に、募集人員の約2倍(約40名)で合格者を決定します。次いで第2段階選抜で面接試験(口述及び課題論述)を行い、調査書や志願理由、高等学校長の推薦書を総合して最終的な選抜を行います。

出願資格は中部圏(富山県、石川県、福井県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県)の高等学校を平成24年3月に卒業又は平成25年3月に卒業見込の者で以下の素養を有する人です。

- ① 人間性豊かな人(ヒューマニティ)
- ② 創造性豊かな探求心を持った人(クリエイティブ)
- ③ 医学や科学の課題に挑戦できる人(チャレンジ)
- ④ 世界に情報を発信できる人(インターナショナル)
- ⑤ 医師、研究者として指導的立場で本学の発展に貢献できる人(リーダーシップ)。

来年度からこのような志の高い学生が多く入学することを期待しています。 文責:医学部入試委員長 村上 信五

■平成24年度まで

入試区分	募集人員	選抜方法
前期日程入試	80名	センター試験 個別学力検査・面接
後期日程入試	10名	第1段階選抜:センター試験 第2段階選抜:面接
地域枠推薦入試	5名	第1段階選抜:センター試験 第2段階選抜:面接

■平成25年度から

入試区分	募集人員	選抜方法
前期日程入試	70名	センター試験 個別学力検査・面接
推薦入試B	20名 ※注1	第1段階選抜:センター試験 第2段階選抜:課題論述・面接
地域枠推薦入試	5名	第1段階選抜:センター試験 第2段階選抜:面接

※注1 合格者が募集人員に満たない場合は、前期日程入試で補充します。

※入試に関する詳細は本学HPよりご覧ください。<http://www.nagoya-cu.ac.jp/>

平成24年度ご寄附をいただいた方々

「市立大学振興基金(医学振興)」に、ご理解・ご賛同を賜り、誠にありがとうございます。平成24年度も多数の方々からご寄附をいただきました。お寄せいただいた寄附金は、教育・研究の推進に活用させていただきます。

- | | | |
|----------|---------|---------|
| 伊藤 忍 様 | 小嶋 昌洋 様 | 西野 好則 様 |
| 樹下 哲夫 様 | 渡邊 裕之 様 | 小林 史典 様 |
| 中川 広宣 様 | 磯部 登也 様 | 岡本 政廣 様 |
| 楠戸 何生哉 様 | (順不同) | |

広報誌：瑞 医(ずい)
発行：名古屋市立大学大学院医学研究科・医学部
〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1
TEL(052)853-8077 FAX(052)842-0863

URL <http://www.nagoya-cu.ac.jp/>

※次号の発行は平成25年5月下旬発行予定です。[年3回 1月・5月・9月]

☒
我こそは
通信員!

広報誌「瑞 医」へ最新の話題をお届けして下さるサポーター大募集!「今、当講座ではこんな若手が頑張っています!」など広報委員会へ取り上げてほしい話題を教えてください。教職員・学生、身分は問いません。我こそは、という方は、igakujimu@sec.nagoya-cu.ac.jp または医学部事務室 広報担当まで